

本県が目指す観光振興財源の方向性



Go Nature. Go Nagano.

令和5年11月16日
長野県観光部



長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

第1回長野県観光振興財源検討部会委員意見まとめ①

◆ 観光振興施策の方向性

■ 地域の魅力・強み

- 長野県の地域が持つ良さ・強み（雪・スキー・山岳・登山・ウェルネス（健康）など）を伸ばす
- 地域の良いところを伸ばすための条件整備や地域の取組のサポート
- 長野県へ人を呼び戻せるような魅力の再発見
- その地に暮らす人が幸せで、地域外の方がその暮らしにあこがれる環境づくり
- 流行や思い付きではない、歴史や他地域の成功事例から学ぶ観光振興

■ 観光産業支援（観光消費額の増）

- 長野県観光の共通課題の整理（人手不足・索道施設や宿泊施設の老朽化 など）
- 右肩上がりの経済成長を続けていた時代からの転換
- 観光消費額増につながる滞在型観光の推進
- 観光業で働くことに対する魅力・価値（賃金）の向上（世界水準の観光人材育成）
- 人口減少社会における観光消費確保戦略を検討（国内・国外の割合・ターゲティングなど）
- 事業者の利益率向上と年間の観光需要の平準化

■ その他

- 国際的な山岳高原リゾートとしてのブランド力向上
- 海外資本の呼び込みに対するスタンスの決定

第1回長野県観光振興財源検討部会委員意見まとめ②

◆ 取り組むべき施策

- Uターン・Iターンの取り込みを含めた観光人材の確保・育成や育成機関の設置
- 観光協会（DMO等）・ガイド・祭事を支える担い手などの確保・育成
- 地域をけん引する人材を、地域で育てる取組

- 観光事業者自身が観光を楽しみ、観光を学ぶ機会の提供
- 宿泊業の強靱化（DX化含む産業そのものの高付加価値化）や小規模事業者のDX化

- 県内の多様な魅力に横串をさし、「ストーリー」としてまとめる取組
- 観光コンテンツに合わせた新たなサポートビジネスの創出などツーリズムチャレンジの場の提供
- アドベンチャーツーリズムなど、年間の需要平準化を意識しつつ消費額向上につながる取組への支援
- ユニバーサルやサステナブルに資する取組

- （市町村等への）財源の再分配機能と（県の役割として）市町村のサポート
- 山岳遭難等のリスクを低減するような「安全・安心」に資する取組
- 県または県版DMO総合的なマーケティング力の強化

第1回長野県観光振興財源検討部会委員意見まとめ③

◆ 観光振興財源の必要性・検討に当たっての留意事項

○長野県を訪れる観光客・県内の観光施設を利用する方が財源の目的・使途・コンセプトに共鳴し、理解を得られている制度とすることが重要

○観光客からいただく財源であることを踏まえ、観光客の声・ニーズを意識すること

- 日本でしか通用しない尺度を持ち込まず、国際基準での議論を行い、しっかりとした制度を構築すべき
- 先行して財源が導入されている欧州等、海外と比べ予算額や財源確保策の状況が明らかに違うということ意識して議論すべき

- 期間やエリアを限定した観光振興財源のあり方は考えられないか
- 環境の維持・保全に資する使途であれば理解を得られやすいのでは

観光振興のための財源確保の前提となる基本的な考え方

- 前回部会の委員意見を踏まえ、観光振興のための財源確保の前提となる基本的な考え方を整理した
- ご意見があればご発言いただきたい。

◆ 長野県観光の目指す姿（しあわせ信州創造プラン3.0より）

世界水準の山岳高原観光地づくりの推進

- ↳ ・ 県内の多様な観光地の特色が活かされ、観光産業の活性化や地域課題の解決が図られている
- ・ 住む人も訪れる人も長野県を楽しんでいる

◆ 「観光振興のための財源確保の前提となる基本的な考え方」

地域に内在する強み・特徴を伸ばし、住む人が地域を誇りに思うとともに、その暮らしに憧れて訪れる観光客が共に観光地を創る

観光に関わる全ての人々がサステナブル（持続可能）かつユニバーサル（誰もが観光を楽しめる）となる取組を進める

世界水準の山岳高原観光地づくりの実現のために考えられる施策（たたき台）

「観光振興のための財源確保の前提となる基本的な考え方」をベースとし、前回の議論を踏まえ、世界水準の山岳高原観光地づくりの実現のために考えられる施策を以下のとおり整理した

考えられる施策	主な取組イメージ
① <u>長野県らしい</u> <u>観光コンテンツの充実</u>	◎ 長野県でしか楽しむことができない特別な体験が味わえる観光地域づくりを推進 <ul style="list-style-type: none">・観光施設・体験のバリアフリー化や多言語対応など誰にでも優しいユニバーサルツーリズムの推進・アドベンチャーツーリズム(アクティビティ、自然、異文化体験)の施設等整備支援・自然・文化体験等を通じた子どもの「学び」の支援・自然、登山、歴史、文化などの特別な体験を提供できるガイド人材の育成・サイクリングロード、登山道、遊歩道の整備
② <u>世界水準の</u> <u>受入環境整備</u>	◎ 年齢・国籍・障がいの有無によらず誰でもストレスなく長野県を楽しめる滞在環境の整備 <ul style="list-style-type: none">・宿泊施設や山小屋等観光施設のDX化や高付加価値化による快適な滞在環境の整備支援・二次交通の整備やキャッシュレス化等観光地間のスムーズな移動の確保・観光地や観光施設のゼロカーボン化、山岳におけるトイレの整備等自然環境との共生支援・バックカントリーエリアにおける雪崩情報等の発信の充実
③ <u>更なる</u> <u>観光振興の体制強化</u>	◎ 地域のビジョンが共有され、広く関係者が協働して地域づくりを行っている体制を整備 <ul style="list-style-type: none">・DMO等のマーケティング力強化・観光地経営を担うDMO等の人材育成・海外プロモーション等による観光情報発信の強化
④ <u>県内市町村への支援</u>	◎ 市町村の観光振興の取組を支援 <ul style="list-style-type: none">・市町村への財政的支援

【参考】他自治体における観光振興財源の使途及び事業規模について

自治体名	主な使途	事業費 (うち財源活用額) 【上段R2、下段R3】
大阪府 (宿泊税)	<p>◎観光客と地域住民相互の目線に立った受入環境整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村が実施する受入環境整備への支援 ・多言語観光案内ワンストップサービスの設置 ・宿泊施設の利便性向上への支援 ・民泊対策への支援 ・舟運の活性化イベント開催や公共船着場の整備 ・災害時の外国人旅行者への情報提供システムの構築・運用 <p>◎魅力づくり及び戦略的なプロモーションの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上方芸能等の発信イベントの開催 ・イルミネーションイベントの開催等、ナイトカルチャーの発信支援 ・大阪マラソンに合わせて開催する国際会議の開催 	<p>742,657千円 (742,657千円)</p> <p>626,442千円 (626,442千円)</p>
福岡県 (宿泊税)	<p>◎受入環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設のバリアフリー化や多言語表記の整備等、事業者が行う受入対応強化を支援 ・宿泊事業者が行う生産性向上の支援(設備整備支援・アドバイザー派遣) <p>◎観光資源の魅力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域の統一テーマによる資源開発と旅行商品の造成支援(施設整備支援・プログラム開発支援) ・サイクルツーリズム推進のための看板・路面標示等整備 ・サイクルツーリズム推進のための受入環境整備支援 <p>◎効果的な情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡・大分DCに向けた取組推進 ・広域観光エリアのプロモーション強化 ・インバウンド向けデジタルプロモーション <p>◎観光振興の体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光人材の育成支援、DMOの形成支援 <p>◎市町村への財政的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡県宿泊税交付金の交付(市町村における受入環境の整備等への支援を実施) 	<p>300,262千円 (261,777千円)</p> <p>1,050,815千円 (762,913千円)</p>
山梨県・ 静岡県 (富士山保 全協力金)	<p>◎富士山の環境保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山小屋トイレの設置・改修支援 ・登山者マナー対策 ・外来種の防除 <p>◎登山者の安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下山道の安全整備 ・安全指導センターの設置や安全誘導員の配置 ・山頂の気象情報の配信 	<p>274,363千円※R1 (157,880千円)</p> <p>239,714千円 (57,778千円)</p>

自治体名	主な用途	事業費 (うち財源活用額) 【上段R2、下段R3】
京都市 (宿泊税)	<p>◎市民・観光客双方にとって安心・安全な受入環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆トイレ清掃・維持管理、道路除草等 ・観光案内機能の充実、ユニバーサルツーリズム普及促進 ・災害時等における観光客等の安全対策 <p>◎京都観光における更なる質・満足度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡崎や梅小路の魅力向上による新たな魅力の創出 ・観光客のニーズに応じた京都の魅力の向上、情報発信の更なる強化 <p>◎京都ならではの文化振興・美しい景観の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の保全・継承に向けた取組 ・京町家、歴史的景観の保全に向けた取組等 	<p>1,290,000千円 (1,289,984千円)</p> <p>1,628,000千円 (1,627,670千円)</p>
金沢市 (宿泊税)	<p>◎まちの個性に磨きをかける歴史・伝統・文化の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金沢らしい優れた広告物を調査検討 ・金澤町家の宿泊施設としての再生への支援 ・芸妓文化や茶屋文化の継承への支援 ・金沢21世紀美術館の中長期修繕計画を策定・基金積立 <p>◎観光客の受入れ環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県市協調による中央観光案内所の運営 ・おもてなし力を高める宿泊施設の改修を支援 ・アメリカの富裕旅行者層をターゲットに県市連携でプロモーションを展開 <p>◎市民生活と調和した持続可能な観光の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなか駐車場案内システムの更新、金沢MaaSの推進 ・金沢駅東広場の環境整備 ・公共シェアサイクルの運営 ・まちなかの鳥害対策の強化 	<p>528,508千円 (528,508千円)</p> <p>490,895千円 (490,895千円)</p>
福岡市 (宿泊税)	<p>◎九州のゲートウェイ都市機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マリンメッセ福岡の整備 ・デジタルサイネージによる情報発信強化 ・公衆無線LANの整備 ・リモート観光案内システムの設置 <p>◎大型MICE等の集客拡大への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声ARを活用したまちあるきアプリの開発 <p>◎地域や市民生活と調和した持続可能な観光振興の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー化や災害対応強化など宿泊事業者の受入環境整備支援 ・海岸の景観向上のための無電柱化設計・工事 ・駅エレベーターの設置 ・公衆トイレの洋式化改修 	<p>754,614千円 (433,803千円)</p> <p>2,036,776千円 (867,357千円)</p>

【参考】本県の財政状況

＜予算の姿(令和5年度当初予算)＞

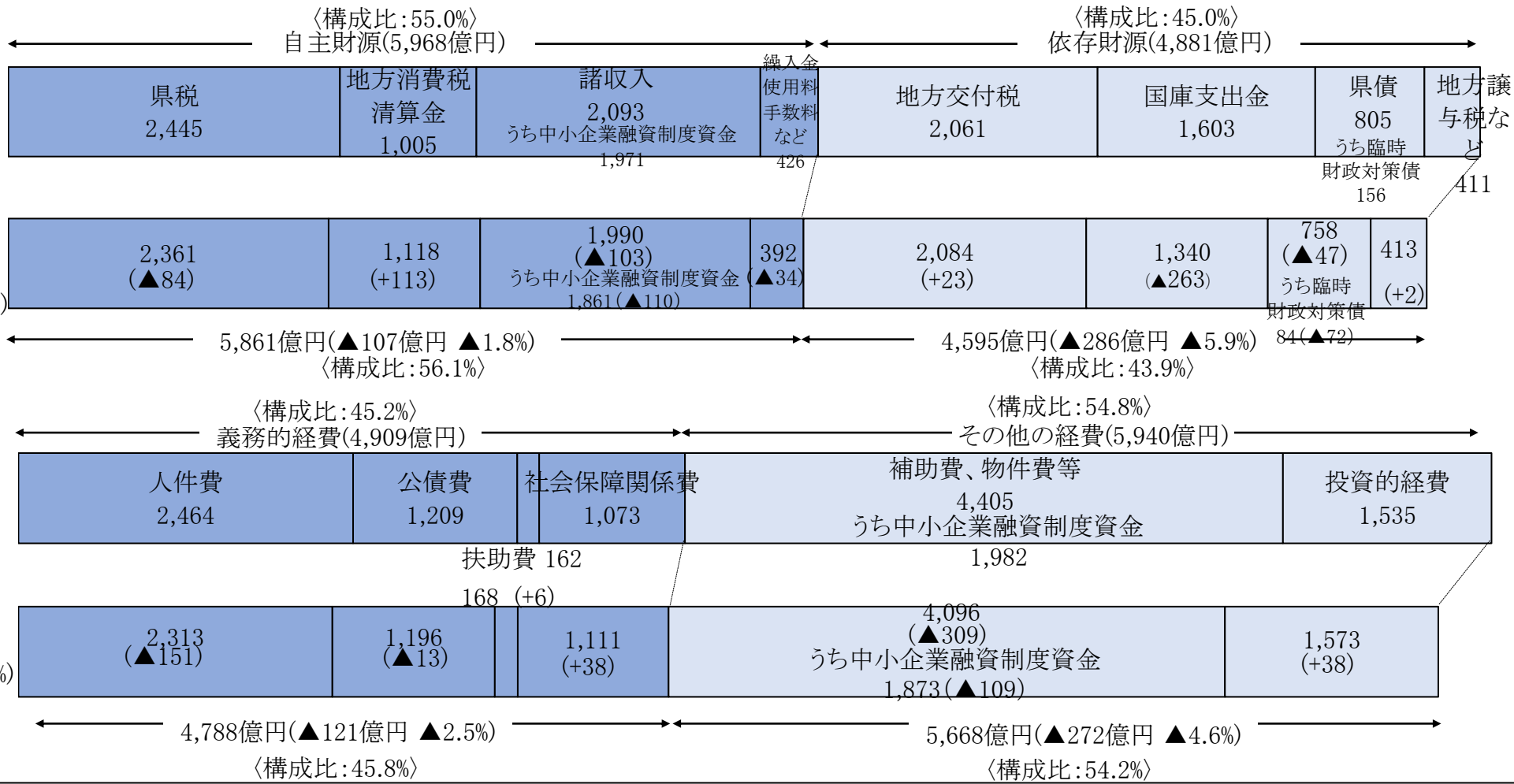
(単位:億円、%)

【歳入】

【歳入】

【歳出】

【歳出】

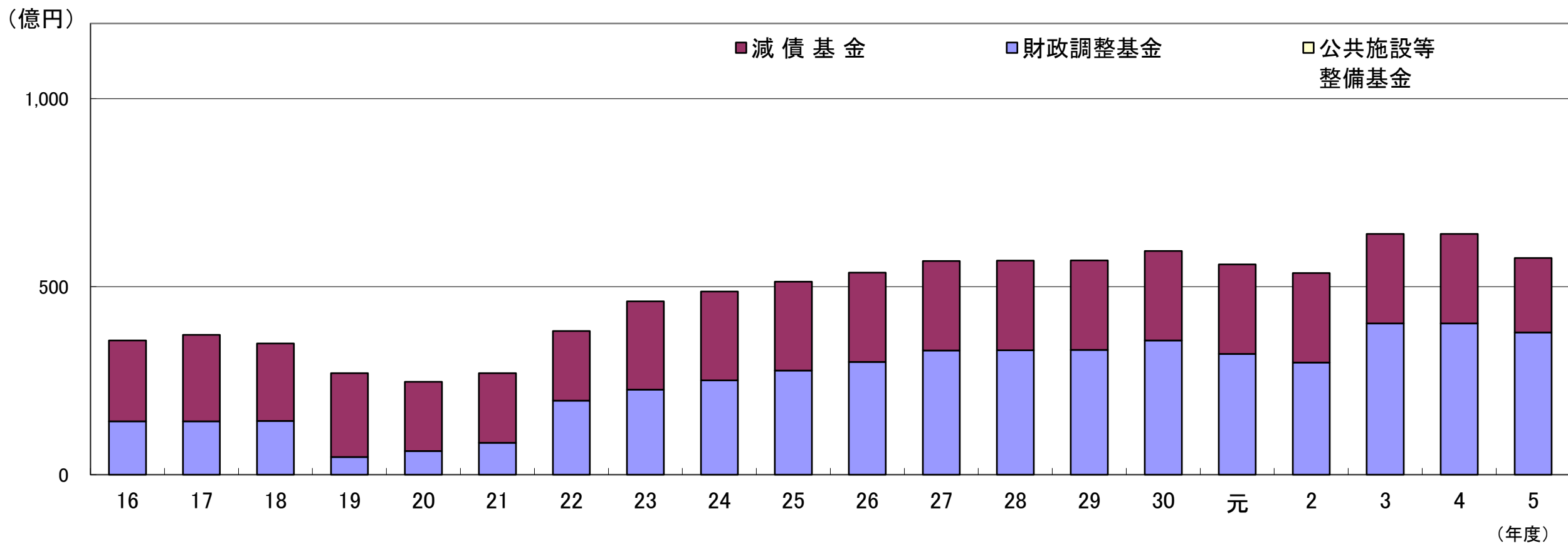


【歳入】 県自主財源の根幹である県税が歳入全体の4分の1に満たず、地方交付税や国庫支出金などの国からの財源や県債に依存する脆弱な構造となっている。

【歳出】 令和5年度は、新型コロナウイルス感染症に対応するための経費や人件費、公債費が減少することから、歳出総額は減少しているが、高齢化の進展などにより、社会保障関係費は年々増加し、財政の硬直性が高まる要因となっている。

【参考】本県の財政状況

＜財政調整のための基金残高の推移＞



県の貯金である基金は、平成5年度以降取崩しが続き、残高が減少してきたが、ここ数年は500億円台を維持。

令和元年度以降、令和元年東日本台風災害や新型コロナウイルス感染症等への対応のため、基金を取り崩さざるを得ない状況だったが、令和4年度は、県税収入の増加等により、残高を維持。令和5年度以降も、効率的な予算執行等により基金残高を確保するよう努めていく。